



令和 8 年 5 月 20 日
日立市教育委員会郷土博物館

郷土博物館ギャラリー展「戦災と生活—米軍が記録した日立空襲—」 の御案内

このたび当館では、標記展覧会を下記のとおり開催することになりました。
つきましては、展覧会の取材及び記事掲載について御配慮くださるようお願いいたします。

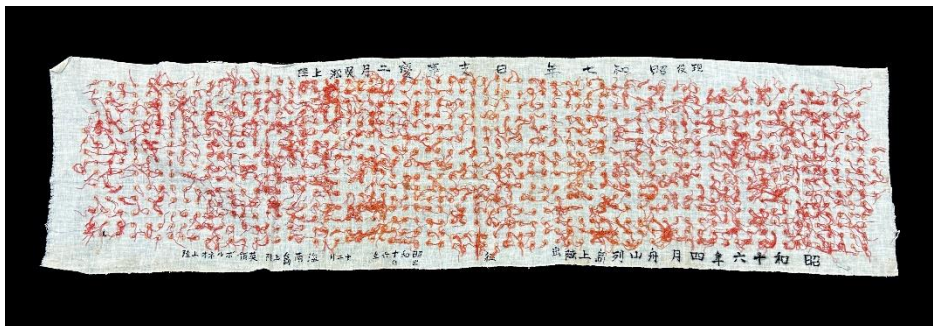
記

- 1 開催期間 令和 8 年 5 月 26 日（火）～7 月 20 日（月・祝）
- 2 開催場所 日立市郷土博物館 2 階 ギャラリー
- 3 内容

太平洋戦争末期の昭和 20 年、日立市に空襲があった 6 月から 7 月に合わせ、戦時下の生活や空襲の写真、当時の状況を物語る「千人針(※1 新収蔵資料)」などの実物を展示し、戦後 81 年が経過し風化する戦争の悲惨さと平和の尊さ、現在と未来を考える機会を提供します。

また、米軍の貴重な記録である『米軍戦略爆撃調査団報告書』内の「日立地区艦砲射撃調査班報告書(※2)」に収録された写真の一部など、歴史的価値の高い資料も展示します。

※1、2 の詳細は、参考資料を御覧ください。



千人針

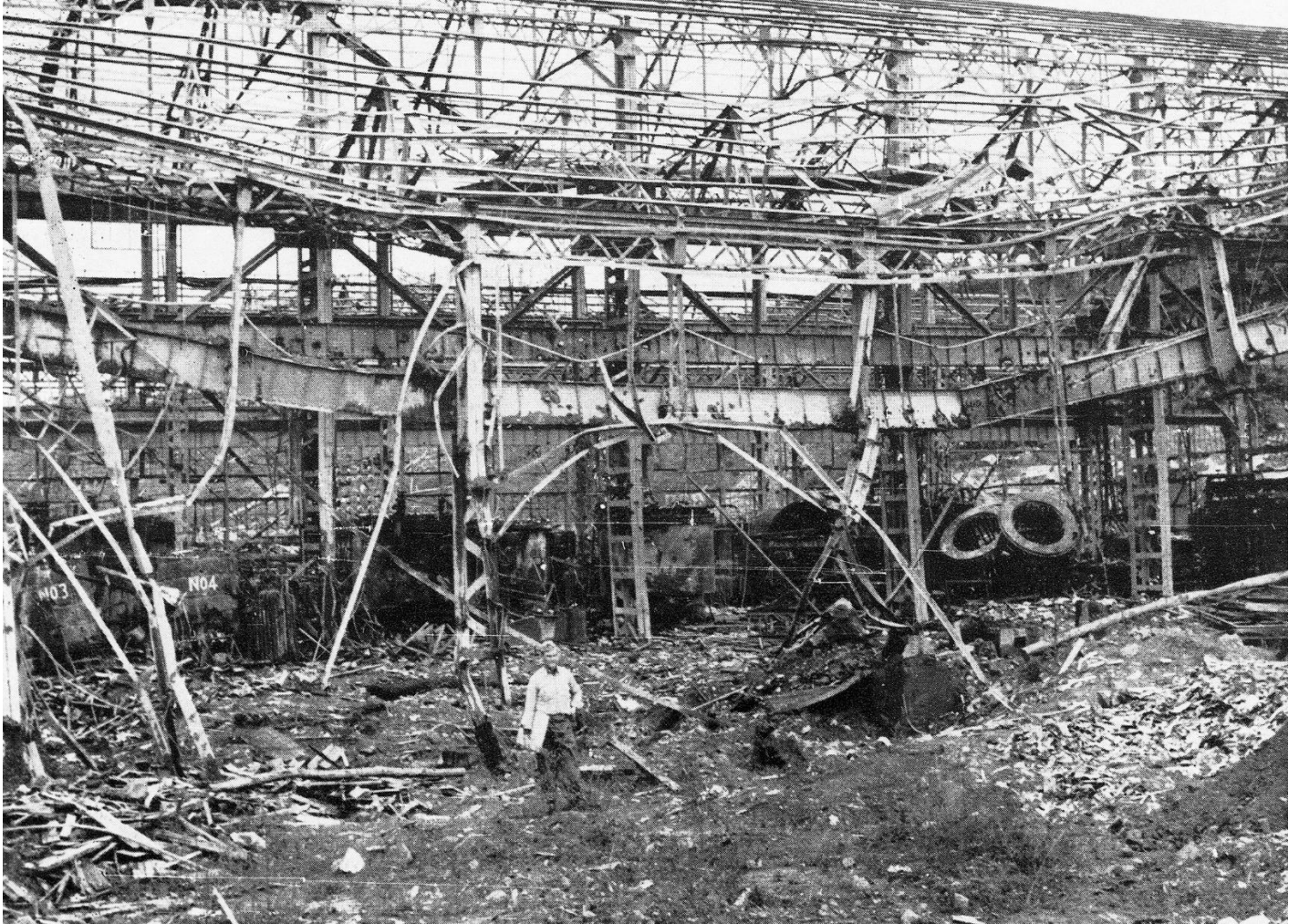
以上

【問合せ】日立市教育委員会 郷土博物館（担当 藤田、萩原）
TEL 0294-23-3231（内線 8954）

ギャラリー展

戦災と生活

-米軍が記録した日立空襲-



1トン爆弾の一撃を受け崩壊した海岸工場水銀整流器工場 昭和20年10月 米国国立公文書所蔵

2026年 5月26日[火]-7月20日[祝]

【開館時間】9:30-16:30 (入館16:00まで)

【休館日】毎週月曜日、7月6日(月)~11日(土)

ただし7月20日(祝)は開館

【会場】日立市郷土博物館2階ギャラリー

【観覧料】無料

日立市郷土博物館



〒317-0055 茨城県日立市宮田町5-2-22 電話0294-23-3231 ファクシミリ0294-23-3230

□ 軍需産業都市 □

1929年（昭和4）、日立製作所は、助川町に海岸工場の建設をはじめます。1931年に起こった満州事変以後、経済の好転にともない、海岸工場はしだいに広げられ、日立製作所の中心工場となっていきます。そして電気機械工業の軍需産業化により、日立工場（山手・電線・海岸各工場の総称）をはじめ1939年設立の多賀工場など日立製

作所の工場は軍需生産に力を注ぎます。海岸工場は航空機の関連部品や高射砲、対戦車砲などをつくっていました。さらに発電設備や一般製品も、その大半が軍に納められました。

また、日本有数の銅山に成長していた日立鉱山においても、軍需品に欠かせない銅を生産していました。

□ 日本空襲 □

1944年（昭和19）11月に入ると、アメリカ軍による日本本土への空襲が本格化します。爆撃機の第一の任務は軍需工場を破壊することでした。まず、東京、名古屋、大阪、神戸など大都市の軍需工場を目標とした攻撃がおこなわれました。ついで焼夷弾による無差別爆撃がおこなわれました。それは日本の軍需産業を支えているのは町の中にある小さな工場である、とアメリカ軍はとらえていた

からです。

1945年3月の東京空襲では10万人もの人が亡くなりました。つづいて名古屋、大阪、神戸などの大都市へも焼夷弾が落とされていきました。

大都市が焼け野原になると、アメリカ軍の攻撃目標は地方の都市へと移っていきました。

□ 日立市の戦災 □

■ 6月10日 空襲 1トン爆弾攻撃

1945年（昭和20）6月10日、朝の9時過ぎ、日立製作所海岸工場は100機を超えるB29爆撃機が投下した1トン爆弾806発の攻撃を浴びました。このとき工場の建物は9割以上がこわされました。

この日は休日で出勤者は少なかったのですが、それでも従業員634人が亡くなりました。爆弾は工場周辺にも落ち、一般市民も亡くなりました。

死者886人 重軽傷者716人

行方不明29人 全壊戸数1486戸



1945年6月10日、アメリカ軍の1トン爆弾で攻撃される日立製作所海岸工場



1トン爆弾で破壊された日立製作所海岸工場



B29の空爆をうける日立製作所海岸工場

■ 7月17日 艦砲射撃

1945年（昭和20）7月17日の深夜、日立市域はアメリカ艦隊の5隻の戦艦、2隻の軽巡洋艦（戦艦より小型で速い）による砲撃を受けます。

艦砲射撃は午後11時すぎからはじまり、二十数分間のできごとでした。目標となったのは日立製作所山手・電線・多賀工場と日立鉦山の電線工場で、合計870発の直

径が16インチ（約40cm）もある砲弾がうちこまれました。この夜は雲が低くたれこめ、雨が降っていました。多くの砲弾は目標である工場をはずれ、周辺の住宅地や山林で爆発しました。

死者436人 重軽傷者410人 行方不明9人
全壊戸数637戸



1945年7月17日夜、アメリカ艦隊の砲撃をうける日立の町



艦砲射撃で破壊された多賀工場

■ 7月19日 空襲 焼夷弾攻撃

1945年（昭和20）7月19日の深夜11時20分から翌20日にかけて、127機のB29爆撃機は日立市街地に対して合計1万3900発、960トンの焼夷弾（油と火薬がまじった爆弾）を投下しました。この攻撃で助川と宮田の市街地の7割

ちかくが焼けました。また伊師浜や川尻、滑川、河原子、油繩子（鮎川町）、久慈の集落にも焼夷弾は落とされました。

死者65人 重軽傷者103人
全焼家屋 約1万1000戸



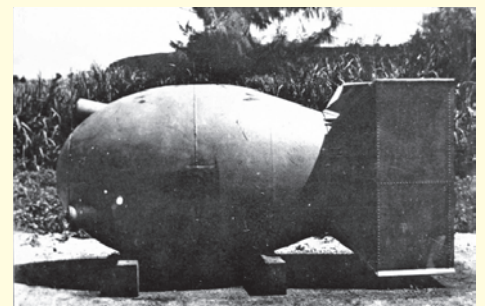
B29爆撃機の焼夷弾攻撃をうける日立の町と逃げまどう市民



焼夷弾攻撃で焼野原となった日立市街地

■ 7月26日 空襲 模擬原爆投下訓練

1945年（昭和20）7月26日の午前9時すぎ、日立市の上空に1機のB29爆撃機が飛んできて日立鉦山の精錬所をねらって約4.5トンもある大型爆弾1発を投下しました。爆弾は目標をそれ、日立製作所山手工場脇の道路で爆発し、数人が亡くなりました。これは原子爆弾を投下するための訓練で、投下したものは本物の原子爆弾と同じ大きさにつくった爆弾でした。



模擬原爆パンブキン

■ その他の空襲による死者

石名坂・南高野・茂宮・大和田町 6人
久慈町 14人 小木津・田尻町 7人
川尻・砂沢・折笠町 12人

■ 空襲でなくなった日立市民 合計約1580人

死者数1580人が各空襲の合計よりも多いのは、あとになってわかった亡くなった方が加えられているからです。空襲の被害の数字は、めやすとしてとらえてください。

【参考】太平洋戦争で亡くなった日立市出身の兵士の数
1761人（旧十王町をのぞく）

(※1) 千人針

昭和7～16年 黒澤幸作さん寄贈

千人針は千人の女性が赤糸で一針ずつ縫って千個の結び玉をつくり、武運長久を祈って出征兵士に贈ったもの。これを身に付けて戦争に赴けば、戦苦を免れ、無事に帰還できると信じられた。黒澤進さんが上海事変から日中戦争まで使用しました。

(※2) 「日立地区艦砲射撃調査班報告書」

『米国戦略爆撃調査団報告書』（1946年、米国国立公文書館）に含まれている「日立地区艦砲射撃調査班報告書」は、多くの調査写真が掲載されている。1945年10月19日、米国占領軍とともに艦砲射撃調査班が日立地区に入った。調査は、一週間にわたり工場側から資料の提出や証言を求め、市民から聞き取りも実行している。被害状況については、艦砲射撃にとどまらず3度の空襲全般の被災記録となっている。報告書には、調査班が撮影した写真152点が記載されている。本展で展示する写真はそのなかに収録されている中の、ほんの一部です。